

第63回全国消防技術者会議の開催報告

消防研究センター

11月25日（水）及び26日（木）の2日間にわたり、第63回全国消防技術者会議が、東京都港区虎ノ門のニッショーホールで開催されました。この会議は、消防防災の科学技術に関する調査研究、技術開発等の成果を発表し、消防職員や消防団員をはじめとする消防関係者間での意見交換を行う場として、昭和28年より毎年開催されているものです。また、昨年度より、「消防防災研究講演会」を同時開催しています。

25日には、「平成27年度消防防災科学技術賞」の表彰式、特別講演及び消防研究センターにおける研究成果等を発表する「第19回消防防災研究講演会」を行い、26日には、公募した研究成果の発表を行いました。また、両日にわたり、展示発表を行いました。2日間で全国から延べ1,000人を超える方々の参加をいただきました。

特別講演として、「阪神・淡路大震災発生から20年を機にあらためて地震火災への備えを」と題して、東京理科大学大学院国際火災研究科の関澤愛教授にご講演頂きました（写真1）。木造家屋が多いわが国では延焼阻止がきわめて重要であり、そのために消防力の常備化が図られ、隣家延焼が始まる目安である出火後8分以内に放水が始められるように消防力を配置するという考え方が決められたこと、及び結果として平常時の都市大火が近年見られなくなったことを述べられるとともに、現在の課題として、地震時に同時に多数の点で出火する火災への対応が重要であり、出火防止、共助の育成及び地震直後の消防水利の確保について話されました。消防のこれまでの成果と今後の課題について、現場に即して具体的に話され、消防関係者にとって大変有用な講演となりました。

25日午後には「第19回消防防災研究講演会」が開催されました。「木造密集地域での火災と安全への備え」をテーマとし、消防研究センターから木造建物火災の現況及び事例と危険性を報告するとともに、現在実施している研究課題である「市街地火災延焼シミュレーションの開発」、「大規模火災における火の粉による火災のリスク」、「市街地火災での被害拡大要因－火災旋風－」について発表しました。

また、北九州市消防局からは、「北九州市の市場・商店街火災から見える教訓と問題点」と題して、木造市場等の火災の実態と被害低減に向けた防火安全対策について発表がありました。

総合討論では、特別講演者の関澤愛教授も加わり、市街地火災に対する取組について、発表者と参加者による活発な意見交換がなされました。

26日には、全国の消防本部における研究や開発の成果を発表して頂きました。口頭発表は21件、展示発表は12件でした。独自の視点から行われた調査、研究及び開発を、全国の消防技術者と共有することができました（写真2）。

次回の全国消防技術者会議の開催に関しましては、決定次第、消防研究センターホームページ（<http://nrifd.fdma.go.jp/>）等によりご案内させていただく予定です。



写真1 関澤愛教授による特別講演の様子

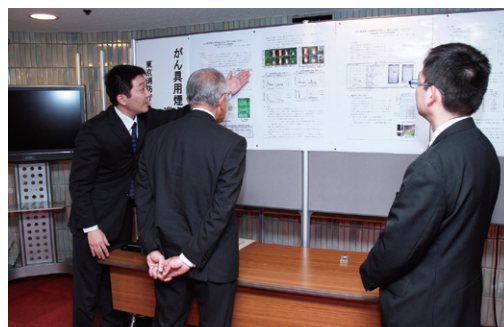


写真2 展示発表の様子

問い合わせ先

消防庁消防研究センター 研究企画室
TEL: 0422-44-8331（代表）